

「障害を持つ息子へ。～息子よ、そのままでいい。～」

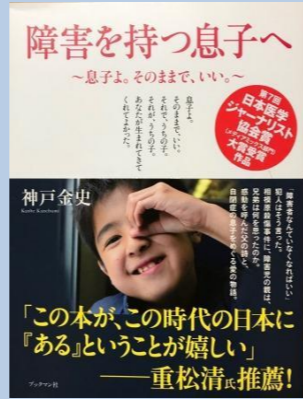
川崎授産学園 市民交流事業 佐藤 恵

川崎授産学園（以下、学園）は、一般市民に障害理解を深めてもらう為に、年に1回、福祉講演会を開催しております。今年度は、自閉症児の親でありRKB毎日放送の記者としてご活躍されている神戸金史(かんべかねぶみ)様をお迎えし、ドキュメンタリー映像上映と講演を行いました。

講師プロフィール



1967年、群馬県下仁田町生まれ。高崎高校から早稲田大学第一文学部に進学、91年に毎日新聞に入社。2005年春に毎日新聞を退職、RKB毎日放送に入社。2016年7月26日、相模原市で津久井やまゆり園事件が発生した。障害者の親であり記者でもある立場で、テレビ・ラジオ、「うちの子」のインターネット公開、YouTube、書籍、雑誌寄稿など、様々な媒体で問題提起を続け、2018年11月に日本医学ジャーナリスト協会賞大賞を受けた。



【障害を持つ息子へ】 2016年7月29日 Facebook投稿

私は、思うのです。
長男が、もし障害をもっていなければ。
あなたはもっと、普通の生活を送っていたかもしれないと。

私は考えてしまうのです。
長男が、もし障害を持っていなければ。
私たちはもっと楽に暮らしていけたかもしれないと。

何度も夢を見ました。
「お父さん、朝だよ、起きてよ」と長男が私を揺り起こしに来るのです。
夢の中で、私は妻に話しかけます。

中略

息子よ。
そのままで、いい。
それで、うちの子。
それが、うちの子。

あなたが生まれてきてくれてよかった。
私はそう思っている。

父より

上記の詩（一部抜粋）は、神戸氏が「津久井やまゆり園」で起きた殺傷事件から3日後に息子さんへの想いをFacebookに綴り、ネット上で大きな反響があったものです。神戸氏のご長男金佑（かねすけ）君は「自閉症」という障害を持っています。

- <自閉症と特徴について> 発達障害の一つで、脳の中枢神経に原因がある先天的な脳機能障害
 - ◆社会性・対人関係の障害（人と視線をあわせない、その場の空気が読めない 等）
 - ◆コミュニケーション障害（人の話したことをオウム返しする、言葉の意味を理解するのが困難 等）
 - ◆こだわり行動（毎日決まった行動をし、予定外の行動はとれない、一つのものに執着する 等）
- ※感覚過敏、自分の気持ちをうまく伝えられず癇癪・パニックを起こしてしまう等、特徴は他にもあり、個々によって異なります。

『自閉症や発達障害について正しい知識があれば…』

外見は普通に見えるのに意思疎通ができない、子供が外で暴れていると親のしつけが悪い、周囲から冷たい視線を浴びる。自閉症について周りの理解がないと、家族は悩み、自分を責めてしまう母親も多いはず。神戸氏自身も父として、自閉症を中々理解できずにいた中で、社会ではもっと理解が進んでいないのではないかと、自閉症について多くの人が知っておくべきことがある、父としてもっと勉強したいとの思いで、自閉症児を持つご家族への取材を始めた。

自閉症や発達障害が原因で、いじめや虐待にあう子どもは多いのではないかと、地域や社会で自閉症について正しい知識や理解があれば、いじめや虐待、障害者差別はなくなるのではないかと…。神戸氏はそう考えます。

そして、取材を始めて見えてきたのは、障害児を持つ家族の厳しい現実、子供を道連れにした無理心中等、社会が抱える残酷な問題でした…。

『息子よ。そのままで、いい。』～父として、息子の障害受容に至るまで～

コミュニケーションが取れず癇癪を起していた金佑君。「障害があっても幸せに生きていくためにはどうしたらいいのか…」という奥様の思いもあり、絵カードというコミュニケーションツールを取り入れたことで癇癪は減少。ドキュメンタリーの中では、厳しい現実がありながらも、家族の努力、時間、様々な経験を得て、障害があってもゆっくり成長していく金佑君の姿がありました。神戸氏も「ゆっくりでも成長している」「そのままでいい」と、目の前の現実から目をそらしてきた中で、ようやく金佑君10才の時に障害受容ができた。障害受容は容易なことではない。理解、葛藤、覚悟、喜び、様々な感情を得た後、受容に至る。とても時間がかかること、と神戸氏は話されていました。

“自閉症”の理解が広がるように・・・講演会で上映したドキュメンタリーは Web 上で誰でも閲覧できるよう公開されています。「うちの子～自閉症という障害をもって【1】～【5】(RKB 毎日放送制作)」と検索してみてください。



神戸様、貴重なお話、ありがとうございました

《講演会に参加された方の感想》

- 差別のない明るい社会になってほしいと改めて強く思いました。もっともっと理解が広がってくれることを願っております。
- うわべだけの取材や思いではなく、真実を伝えてくださってありがとうございます。
- 私も娘と心中を考えたことがあります。娘は自閉症ではありませんが生きづらさから泣いて「殺してほしい」と私に言ってきました。生きていてよかったです。
- 私の子どもは口唇口蓋裂で生まれました。私達の所に来てくれた、使命のある子だと思って育てていこうと決意しました。

《ボランティア希望や見学等のお問い合わせについて》

社会福祉法人セイワ 川崎授産学園 〒215-0001 川崎市麻生区細山 1209 番地
TEL 044-954-5011 (代) E-mail info@seiwa-gakuen.jp
FAX 044-954-6463 URL http://www.seiwa-gakuenn.jp